試將下列日文文獻譯爲中文(每題 25 分)

一、外地そのものでは、殆んどその文学はみとめられず、内地の中央文壇を動かしてそこに足がかりを得、その後で外地の読者層へ浸入して行く。われわれはそれと同じことを、例えば、雑誌「媽祖」のようなものについて、確かめることが出来た。故に、台湾を舞台とする文芸の士は、アイルランド文学やプロヴァンス文学などの初期と同じように、目下のところは頗る少数の具眼者にのみ訴えるに過ぎぬことを、はっきりと覚悟して、衣食の資はその創作した文芸以外のものから求めるだけの用意をなすべきである。

—島田謹二「台湾の文学的過現未」（執筆は 1943 年）、同『華麗島文学志』、東京：明治書院、1995 年、480～481 頁より—

二、明治二十六、七年には政派関係の大新聞はほとんど衰え終末期を迎えた。大新聞が影をひそめた後、小新聞から出て大新聞化した『読売新聞』『朝日新聞』などは、いよいよ新聞作成の実務と営業に努力を傾注し、工夫を凝らして購読者獲得に励んだ。その目玉商品が新聞小説——『読売新聞』の小説欄に代表される「小説」と、各紙が争って掲載した「絵入り続き物」——であった。

—本田康雄『新聞小説の誕生』、東京：平凡社、1998 年、216 頁より—

三、「国民的運動と云ふものが始まれば必ず其処に二個以上の人種の Contact 接触が起る。それは多くは優等の人種と劣等の人種ノ『コンタクト』で場合に依ると同等の人種の接触もありますが、少なくとも此に強弱の差がある。故にやはり優等劣等の区別があると云つても良からうと思ひます、斯の如く二種の違つたる人種が一諸になる、すると次に又一けの問題が起るそれは同化 Assimilaton で、一つの人種又は国民が言語風俗其他自分の民族の特性を失つて一一他の人種に化してしまうと云ふことが同化である、所が其同化がなければ即ち絶滅が起つて来る。「（中略）つまり欧羅巴人種の自然人種に対する政策と云ふことを目的として何れも失敗したと云ふことに帰する、若し然らずんば同化と云ふ仮面を破つて其実滅尽させた（中略）今日の文明の人間と彼等（臺灣人）を接触させるとが必要である。此手段に依て経つたならば或は今御話申したやうに開化を目的として破滅の結果を来すか知りませぬが、どうしても接触をさせるのが第一の手段であります。」

（明治３３年『台湾協会会報』第２７号、石塚は「国民的生存競争及同化絶滅」）

四、「国家ノ富強ヲ図リ国民ノ智徳ヲ啓発シコレヲ文明ニ誘致スルハ教育ノ力ニ籍ラサルハ可ラサルハ言ヲ須ヒス。謂フニ本島民ノ如キ漢族ノ系統ニ属シ四千年来一定不動ノ軌道ヲ踏襲シ其風俗理想ニ於テ牢守トシテ抜ク可カラザル民種ヲ化シテ順良忠実ナル日本国民ト爲サンニハ、全島各地ニ公学校ヲ設置シ次代ノ島民タルヘキ幼年ヲ薫陶シ日本ノ言語ヲ注入スルト同時ニ日本的普通教育ヲ施スニ若カサルナリ」